

Igroup

communication

Special 12
2024年7月31日発行

一人ひとりの一隅を
照らし続ける。



【特集】

2024年 総会・研修会

七夕の取り組み

トピックス

- ・じゃがいもの収穫
- ・えんの改修

assist roomについて

委員会活動

BOOK CAFÉ PERCH

| 7月から再スタート

NPO法人 アイグループ

〒816-0848 福岡県春日市白水池2丁目14
TEL:092-710-0013 www.npo-aig.jp

見やすいユニバーサル
デザインフォント
を採用しています。



■ 2024年 定期総会について

昨年から総会後に基調講演を設けて、その後交流会を行うことを行っています。

今年も昨年講師にきていただきました恒松先生をお招きして多くの学びを得る機会をいただくことができました。事前に募っていた質問事項にもお答えいただきました。参加した職員の方も意見交換の機会をいただけたことでとても充実したようでした。交流会では、入居者にも参加していただきました。10ホームから職員が参加して、開催地の福岡県の入居者にも参加していただきました。ゲストに熊本のホームを退居して東京でアーティストを目指すOGを招き、とても素敵な歌声を届けていただけました。機会のトラブルで途中数回音が途絶えることがありましたが、くじけず落ち着いて歌いなおす姿に成長を感じました。

会場にいた参加者が感動のあまり涙を流して拍手をしていた姿も印象的でした。日々の支援の結果を実感するまでにとっても時間を要する役割です。今日がその一日だと嬉しく見守ることができました。また、このような機会がえられるように支援を続けて活動したいと思っています。



■ 研修会について

今年度は4月から毎月対面での研修の機会に取り組んでいます。

4月は「組織の一員としての意識・ビジネスマナーの基本」、「仕事の進めかた時間管理」、「個人情報とプライバシーの保護」
5月は「信頼される言葉づかい、コミュニケーション」、「電話対応 基本と実践」、「ビジネス文書、ビジネスメール」をivy care projectの代表である高橋いくこ先生をお招きして学ぶことができました。高橋先生の講義は実践事例を交えて参加型の研修でしたので参加者の皆様にも理解しやすいアンケート結果でした。6月は定期総会時に全国自立援助ホーム協議会 事務局 長兼あすなろ荘ホーム長の恒松先生に「自立援助ホームの支援について」を学びました。7月は「運営指針と自立援助ホームの実践のあり方」を青少年の自立を支える道南の会 会長の高橋一正先生をお招きして学ぶ機会をいただきました。高橋先生の話聞いた職員の皆様は、多くの気づきを得られた様子でした。運営指針作成の経緯・運営指針の理念と原理について・自立援助ホームの役割と原点・自立援助ホームに携わった先輩たちの想い・7Hについて等さまざまな実践事例を元に学ぶことができました。今回の時間ではとても足りないくらい色々なことを教わりました。

8月はえんの開設時に自立援助ホームの姿勢を教えていただいた大谷先生をお招きします。9月はこども家庭庁から先生をお招きして制度を学び、10月は社会福祉法人甘木山学園の坂口先生をお招きして地域支援について学ぶ機会をいただきます。11月は実践事例を元にしたグループワーク、12月は長崎県“人間と性”教育研究協議会の代表の中村先生をお招きして性について多岐にわたって学ぶ機会です。毎回法人内の10ホームが会場に集い対面での研修機会を得られることで、去年よりも職員間の関係性が良くなっているように感じています。開催地も福岡・熊本・長崎で会場を選定して取り組んでいます。これも今期から委員会を設置して研修整備委員会の職員の努力のおかげです。感謝をお伝えしたいと考えています。また、研修に参加する職員の成長も楽しみに取り組みを行っていきたいと思います。



七夕の取り組み

innから『七夕に願いを込めて』

梅雨明けが待ち遠しい今日、全国では気温が30℃越えのニュースが連日放送されています。本格的な夏が到来する時は、どのくらい暑くなるか心配されるところですが、児童も職員も暑さに負けずに頑張ってお参ります。7月と言えば七夕。innでも、笹に折り紙や短冊で七夕飾りをしています。短冊には、それぞれ願い事を書いていますが、このくらいの年齢になると願い事も現実的なものです。「お金を貯めて一人暮らしできるようにしたい」「お金が欲しい」等々。最近では、自立に向けて就労が一人ずつ決まっていき、少しずつではありますが目標に向かって動き出しました。職員としては、児童の願い事が叶いますようにという思いでいっぱいですが、なかなかスムーズにはいきませんが、これからも年間の行事やイベントごとを通し、関係性を築きながら目標、夢に繋げるよう支援していきたいと思っております。



LUCKの七夕

暑さも日々増していき、本格的な夏もすぐそこまで来ているようです。LUCK では子どもたちと『七夕イベント』を致しました。折り紙や笹でリビングを七夕の飾りつけて彩り、食事を職員と子どもたちと一緒に準備致しました。職員が準備をしていると「私がするよ」と手伝ってくれる子どもたち。職員だけではなく、子どもたちと一緒に七夕の準備が出来た事、そして七夕当日を迎えられた事に喜びを感じ、毎年この光景が見られるように日々の支援を継続しなければという思いがより一層湧いてきました。七夕と言えば願い事を書いて笹に短冊を飾ると言う風習があります。子どもたちも一生懸命短冊に願い事を書いていました。子どもたちと職員それぞれの願いが叶いますよう、そしてまた来年も子どもたちと七夕が出来ればと思います。



Permitは『個性あふれる短冊』

暑さが増していくのを感じる日々、七夕のイベントを行いました。Permitではイベントの前日に子どもたちと折り紙で飾りつけと短冊を作りました。職員に聞いたり、自分で調べたりして苦戦しながらも一生懸命に作りました。イベント当日に、笹に飾りつけをし、どんな願い事を書こうか悩みながらも書き終わった後は叶うように祈ったり、ワクワクしたりしながら個性あふれる短冊を笹につけました。職員も願い事を一緒に書きました。夜には星空を眺めたりもしました。子どもたちと職員の願い事が叶うようにそして、心に残り楽しかったと思ってくれるような七夕がまた来年も出来ればと思います。



えんの『季節を感じ心に残る七夕』

7月の七夕に向けて子どもたちと準備をしました。笹はお借りしている畑の奥に竹山がありそちらで用意をすることができました。笹に飾るものを子どもたちと考え、折紙の得意な子どもが率先して飾りや短冊を作ってくれました。それぞれが自分の短冊に願い事を書きこみ自分たちで笹に飾りつけをしました。願い事を書く顔はどの子も真剣でした。飾りつけをする時には笑顔で楽しそうに願いを込めて笹につけました。職員も一緒に願い事を書きました。一年のうちの一つの行事を職員と子どもたちで取り組めることは毎年の楽しみになっています。季節を感じ心に残る七夕をこれからもしていきたいです。子どもたち、職員の願いが叶いますように。



テンポラリーの七夕

七夕は同じ春日にあるホーム[えん]と同様でお借りしている畑にある竹山から笹を用意しました。テンポラリーの子どもたちはどちらかというと控え目でイベントや行事に積極的に参加する子が少ないのが特徴です。以前、バーベキューをやりたいとの声があがり職員は張り切って用意しましたが結果、職員だけのバーベキューになったことも今は笑い話になっています。それでも一年の行事やイベントの計画は続けていきたいと思っています。参加がなくても笹が飾られていたことや普段の食事と少し違うなどのどこかに残っていてくれたら、いつかホームから巣立った時にその光景が記憶の片隅に残ってくれたらと願いをこめて七夕をおこないました。



ラブから『七夕に願いを込めて』

ラブでは、七夕の2週間ほど前から児童と一緒に飾りつけの準備をしました。職員が折り方を調べて不器用ながら作る中、次々と飾りを器用に作る児童にすごく感心しました。また一つ場所を見つけれられたような気がします。それぞれの願い事では、個性を感じ取れる内容や「頑張れ!」と応援したくなる内容など、微笑ましいものばかりでした。児童と職員、それぞれが願いを書き込んだ短冊と一緒に作った飾りで小さな笹をいっぱい埋め尽くし、七夕の日を迎えました。当日は児童の体調不良などとタイミングが重なってしまい、みんなで食事を囲むことはできませんでしたが、体調面の復帰と児童の元気な姿をいち早く見られるようにと、職員一同、そんな想いを込めて短冊にもう1枚、願いをつづりたいと思います。今年もみんなが健康でいられますように。そして、児童の願いが叶いますように。



じゃがいもの収穫

入居者・退居者・職員とのじゃがいもの収穫。今年は30kgの袋20個分を収穫することができました。各ホームと退居者、職員の皆様でいただきたいと思います。毎年楽しみになるように続けていきたいと思っています。



自立援助ホーム えん 改修しました。

えんの玄関周りの改修をしました。庭の木の根が成長してコンクリートを割って危険な状況でした。これで当分の間は安心できそうです。



assist room利用者の声 M.Yさん

高校3年生の春に自立援助ホームに入居しました。それまでは実家で暮らしていたのですが、色々あってホームで暮らすことになって戸惑いもあり、最初はなかなかスタッフの方に心を開くことが出来ませんでした。でもどんなに反抗しても暴言吐いても、見捨てることなく真剣に私と向き合ってくれるスタッフの方たちと出会って、徐々に自分を出していけるようになりました。ホームに帰ると「おかえり」と言ってもらったり、温かいご飯があったり、今日あったことや悩みを沢山聞いてもらって、それまで味わうことが出来なかった温かさを感じる事が出来ました。

大学1年生の秋からホームを出て、assist roomを利用した一人暮らしをさせてもらっています。一人暮らしをする大変さや楽しさ、責任感を身につけることができています。こんな私でも真剣に向き合ってください、生活できる場を提供してくださって感謝しています。ホームを出て一人暮らしをしても変わらず、悩みを聞いてくださったり一緒に進路のことを考えてくださったりと感謝しています。

自立支援担当職員 活動報告

本年度より新設の若年者支援部にて自立支援担当職員としての活動を開始いたしました。まだまだ手探りの状態ですが、これまでの活動についてご報告いたします。私たちはホームを退所された方の自立支援に取り組んでいます。またホームに入居中(退所前)の方と信頼関係を築くことも意識しながら、触れ合う時間をつくっています。退所者支援の最初の取り組みとして、退所者の連絡先や居場所の確認をすること、対象の方に自立支援担当職員の存在を知ってもらうことから始めました。連絡を取り合う中で、退所後にもそれぞれが困難な事情を抱えていることがわかってきました。中にはホームを出ることが早すぎたかもしれないと振り返っている方もいました。集団生活の場から出たい一心で希望して退所はしたものの、まだまだ社会で自立する力が備わっていないケースもあります。仕事関係、家族やパートナーとの関係、生活の不安を抱え、心身の不調などを訴えている方の声も聴いてきました。異なる一人一人の課題を把握し、時には見守り、時には側で寄り添いつつ、必要なサポートをしていきます。

- 現在、自立支援担当職員として下記の取り組みをしています。
- *電話、メール、SNSによるコミュニケーション
 - *同行業務 (病院、学校、買い物、役所、弁護士相談)
 - *訪問面談 (自宅、職場、施設、近場飲食店)
 - *相談業務 (生活、就労、進学、恋愛)
 - *引越しサポート
 - *PERCH情報案内
 - *法人イベント案内と実施 (食事会、芋掘り、畑作業)
 - *その他 (誕生日のメッセージ、クッキー届け、協議会貸付申請手続き等)

今後は、具体的な対応の質を高めること、退所者との適切な距離感を保つこと、担当職員間の情報共有、各ホームとの連携を意識しながら、実践していきます。また、対象者名簿の情報を充実させることで、より多くの退所者と触れ合う機会を増やし、見守る大人たちの輪を広げることを目指していきます。

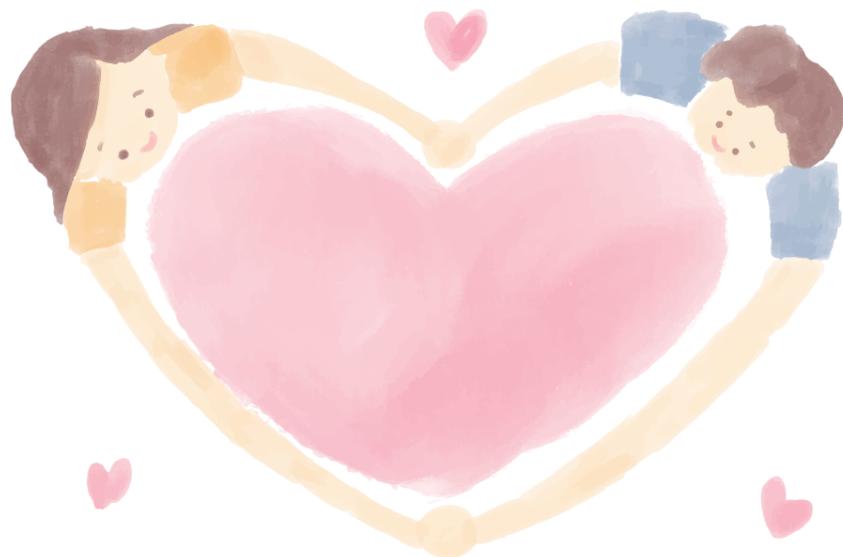
自立支援担当職員 梯 紀久子

■ 直接支援委員会 活動報告

スタッフみんなが働きやすく効率よく業務ができるように課題が出るたびに対応をしていきます。

アイグループ内で委員会が発足されました。そのうちの一つである直接支援委員会について触れたいと思います。現在はメンバー4人で委員会を運営しています。初めての取り組みは運営指針各論と総論を理解しやすいように実践する目線での解釈や砕いた文章に変換をおこなう作業をしました。経験のない方でも読んでいただけて理解しやすい内容を補足できたのではないかと考えています。支援する立場として運営指針をまずはしっかりと頭にいられてもらいたいという思いから始まっています。その次の取り組みは[支援]に関するマニュアル作成です。アイグループは全10ホームあります。たくさん子どもたちに関わっている実績を活かし多種多様にある事例を発表して

もらい困りごと、対応の仕方や実践方法を1冊の冊子にまとめました。支援に行き詰まったり立ち止まったりした時に強い味方になる1冊になればと思い仕上げています。そして最後に現在取り組んでいることとなります。10ホーム全ての記録保管方法の統一。児童の行動記録や自立支援計画書等、記録の保管になります。ファイルの色や形状も統一をして誰がどのホームに入ってもすぐにわかるような対策にもつながります。整理の仕方等、アイデアを出し合いスタッフみんなが働きやすく効率よく業務ができるように改善、整備をしていきます。今後も課題が出るたびに対応をしていきます。メンバー一同、楽しみながら取り組んでいけたらと考えています。



■ 研修整備委員会 活動報告

研修の実施内容や研修委員会のあり方を職員の声聞きながら検討していきたいと思ひます。

研修整備委員会は令和6年1月から活動を始め、今年度の研修会と環境整備について議論、検討してきました。研修内容を企画する際はアイグループの理念やビジョンを理解し共感を深めていただき、職員にとって有意義で身に付けてほしい知識や実際の場面での問題解決や意思決定のスキルを磨いて自己成長のための学びの場になればという思いで取り組んでいます。また新しく入職された方は慣れない環境で些細な事にも不安があるため、新人研修ではビジネスマナー研修の中で社会人スキルの習得とグループワークで他

の施設の職員と意見交換や親交を深め安心して働けるような研修となりました。12月には入居児童も参加して職員と一緒に『性について』の研修を行う予定です。研修後にはアンケートを取り、職員の意見や要望を取り入れ、研修会場や時間変更を行い、沢山の職員が参加してもらえるように企画しました。さらに今後の研修の実施内容や研修委員会のあり方を職員の声聞きながら検討していきたいと思ひます。

令和6年度の研修一覧

4月26日	福岡	新人育成研修	高橋 いくこ 先生
5月10日	福岡	新人育成研修	高橋 いくこ 先生
6月 5日	福岡	定期総会・自立援助ホームの支援について	恒松 大輔 先生
7月 3日	福岡	運営方針と自立援助ホームの実践のあり方	高橋 一正 先生
8月 2日	福岡	未定	大谷 幸代 先生
9月 7日	福岡	未定	胡内 敦司 先生
10月 8日	熊本	未定	坂口 明夫 先生
11月	福岡	児童対応の事例	グループワーク
12月 5日	長崎	(仮)性について(児童参加)	中村 まりこ 先生

他にも安全計画の策定、住居や設備の安全点検を行い、必要に応じて修繕工事、備品購入等を行っています。災害時の対応としてはハザードマップ等を用いて災害リスクを把握

して避難場所の確認、食料や備蓄品のリストを作成し入れ替えや、補充を進めています。入居者や職員の安全と安心して居心地の良い環境を整えていきたいと思ひます。

■ 経費支援金委員会 活動報告

措置費に関することについて職員の方が不明に思っていることについて各ホームにアンケートを実施しました。

現在経費支援委員会では、措置費に関することについて職員の方が不明に思っていること(措置費で請求できるのかなど)について各ホームにアンケートを実施しました。

回答についてはチャットワークを利用してQ&Aでお答えしています。

また、措置費の請求についても各ホームの統一性を図るために領収書の貼り方、提出の仕方などを周知しています。実際に委員会で話し合いを行うと何のために毎月月末に領収書の報告をしているのか、領収書の報告の仕方の指摘があったのかなどより詳しく知ることができています。

月末、各拠点で措置費の領収書のチェックを行うようになっています。

そこで訂正が必要な個所は訂正を行い、チャットワークへ例としてあげ各ホームへ再周知してもらうようにしています。

今後は小口現金の統一性を図るための周知を行ってまいります。



■ 情報委員会 活動報告

目玉企画としてユニバーサルスタジオジャパンへの研修旅行を計画中です。

情報委員会。

他の委員会と違い、名前だけでは伝わらない部分もあるかと思えます。簡単にこの委員会でさせていただいていることをご紹介します。

委員会のメンバーは、新人やベテランの枠にとらわれず多様な人材で構成されています。主にホームに入居している方がご自身の可能性を引き出すきっかけになるような参加型のイベントを企画立案しています。また入居者のみをターゲットにするのではなく、支援する職員が活躍できる、人材を活かすイベントにもなるように心がけています。

これまでの委員会では、固定観念を取り外し、互いがわくわくするような自由なアイデア出しをしてきました。法人内で実施したアンケートも参考にしながら目玉企画としてユニバー

サルスタジオジャパンへの研修旅行を計画中です。ただの観光ではなく、入居者の一生の思い出になるような、素敵な出会いにあふれた“アイグループ版修学旅行”を目指しています。

また、そのような企画立案のみではなく、入居者、職員、それぞれの生活や支援に役立つ情報をまとめることを目指しています。

それぞれの委員会で積み上げた経験や知恵、法人外の情報も集めていき、「自立援助ホームに関連する疑問は、情報委員会に確認すれば必ずよいヒントが得られる」と思ってもらえるような、知恵袋を作成することも目指しています。

長期的な視点で、法人の外にも目を向けながら、多くの方のお役に立てるような委員会をつくっていきます。



■ BOOK CAFÉ PERCH

新たにカフェメニューを追加し、 7月から再スタートです。

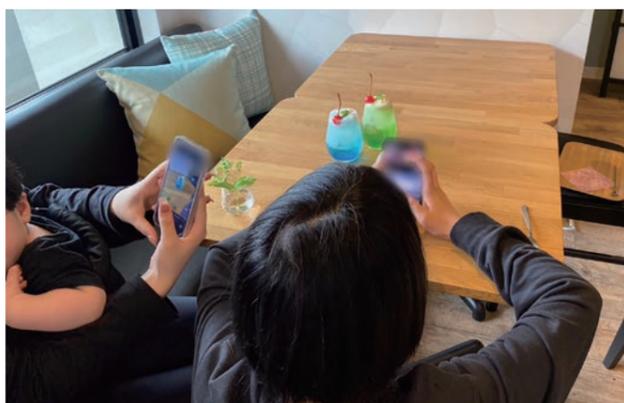
PERCHでは、今年3月15日からランチの提供をスタートしました。

一般のお客様への営業も行うPERCHは、子どもたちの居場所になればいいな、働く練習の場になればいいなという思いで立ち上げたブックカフェです。ランチ営業のスタートをきっかけに、キッチンでの仕込み作業や焼き菓子づくりなどの就労体験にも子どもたちが参加できるようになりました。先日、レンタルスペースとして貸し出して行われたイベントでは、ドリンク作りやキッチンでの作業を手伝いに来てくれた子もいました。たくさんの方たちの中で緊張した様子でしたが、手が空いたら進んで洗い物をしてくれるような姿勢も見られ、頑張っている様子に感心しました。このアイグルー

プ通信を発送するための封入作業もPERCHを使っでの就労体験という形で参加してもらっています。

様々な形で、子どもたちの働く意識づけや外に出る一步となることができるように活動を続けていけたらと思います。

ホームに入居している子も時折ランチを食べに来てくれますが、ホームを離れてassist room(アシストルーム)で生活している子どもたちも食事をしにPERCHを訪れてくれます。みなさんがニコニコと食べる様子を間近で見ること



ができ、元気を分けてもらっています。また、退去した子どもたちもご飯を食べに、話をしに、PERCHを訪ねてくれる機会が多くなり、とてもうれしい時間を過ごしています。

パートナーと来てくれる子、カウンターで悩みを話す子、小さな赤ちゃんを抱えてきてくれる子、お腹の大きな子、大切な幼馴染を連れてきてくれる子。みんな「ごちそうさまでした」「おいしかった」と言ってくれます。その言葉に励まされると同時に、ふつうのお店ではなかなか気軽に話したりできないだろうな、この「ごちそうさま」の言葉は、ホームに入居していた時に彼女たちと接していたスタッフからの見えないバトンなんじゃないかな、そんなことを考えます。

ホームに入居中は温かい家庭料理をみんなで食べることができていたと思いますが、社会に出ると、ひとりで食事を適当に済ませるような時間が多くなっていくのではないのでしょうか。顔の見える相手に「ごちそうさま」を言える場をこれからも温かくつづけていきたいです。



そして開設した時から、PERCHは法人スタッフにとっても交流の場・学びの場でありたいと考えていました。近頃はランチミーティングとして、研修や会議にもPERCHを利用してもらっています。PERCH(とまり木)という名前の通り、みんなが気軽に立ち寄れる場所でありたいと思います。

すこしの間、新体制を整えるために一般営業を控えていましたが、7月から再スタートしました。これを機に、新たにカフェメニューを追加しました。試作をしているときに、ちょうど来てくれたOGたち。写真を撮るのはスタッフよりももちろん上手です。彼女たちのセンスに頼り、撮影をお願いしました。ありがとう!さすがです!!



玄関前のスペースの土地を利用して畑作りをしました。

先 日までは肌寒さを感じる日もありましたがゴールデンウィークが過ぎ一気に夏が到来したように感じる日が増えました。梅雨の時期ですが雨が恋しいと思えるほどのお天気が続いています。えんでは新たな取り組みを始めました。まず一つ目に、玄関前のスペースの土地を利用して畑作りをしました。鍬で耕し畝を作るところまでは職員がおこない、苗植えや種まきは子どもたちが率先しておこなってくれました。何を育てるかを一緒に考えホームセンターに購入に行きました。こちらの畑には、ミニトマト、ナス、ピーマン、シソ、ハーブの苗を植えました。種はオクラ、ひまわり、朝顔を蒔きました。子どもたちは早く芽がでないかなどワクワクしながら水やりをしています。すでに小さな実をつけているものもありますが本格的な収穫は夏頃です。食卓を飾る日が今から楽しみです。そして庭の畑と並行して家庭菜園程度の畑もお借りすることになり子どもたちを連れて畑作業に出掛ける日も増えてきています。こちらの畑では子どもたちが積極的に鍬を持ち耕す姿も見ることが

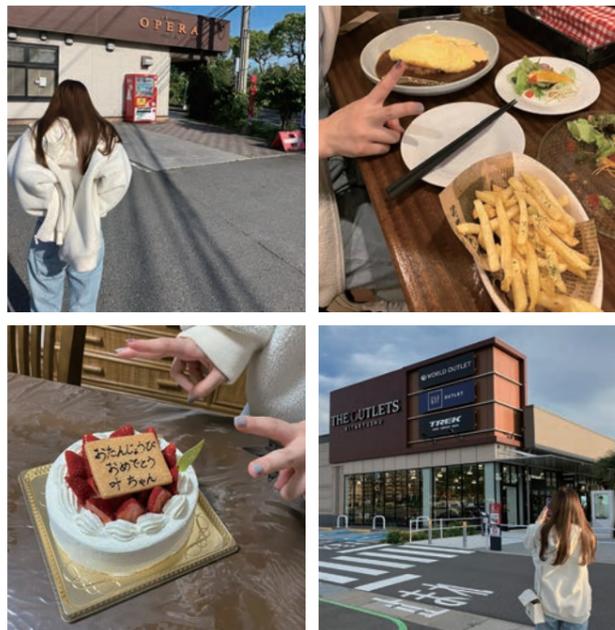


できました。除草目的のマルチ張りも一緒におこない本格的な畑作業を経験することができました。定期的な水やりと収穫の活動を通して日中外に出かけるきっかけ作りになり自然との触れ合いを通して精神面での良い変化が作れたらと考えています。ゴールデンウィークのイベントとしてはホーム内でバーベキューをしました。外で食べる食事はとても美味しいですね。次のバーベキューでは育てた野菜を収穫し食べることができたと思っています。



イベントを通して成長と新たな門出を祝うことができ大変嬉しかったです。

だ んだんと夏の季節に移り変わり、テンポラリーで生活している児童も活発に動いている姿を見せてくれるようになりました。現在、テンポラリーでは5名の児童が生活しています。今月から新しい児童が入居し、学校もバイトも頑張っている姿には頼もしさを覚えます。他の児童にも良い影響を与えてくれ、「私もバイトしなきゃ」と自発的に語る児童もいます。また、バイトを頑張り新潟に免許合宿に行った児童もいます。その子は普段から学校やバイトを頑張っており、自分の進路についてもオープンキャンパスに行ったりしています。先月、誕生日を迎え職員と北九州のアウトレットに行ったり、美味しいご飯を食べたりしたそうで、「とても楽しかった」と笑顔で話っていました。普段はとても大人びており、忙しさも相まって中々会って話すことがなかったのですが、イベントを通して成長と新たな門出を祝うことができ職員としても大変嬉しかったです。そんな彼女も独り立ちの時期になり、アシストルームへ移動することが決まりました。



当初は「早く1人暮らしがしたい」と前向きに話っていましたが、いざ決まると「寂しい」と吐露する場面もありました。一步踏み出す不安な気持ちに寄り添いながら継続的に支援をしていこうと思います。テンポラリーを出ても「ここが私たちの居場所」と思えるように、普段の支援や関わりをしていきたいと思っています。

月に1度の意見交換会を行っています。

梅 雨の雨とともに熊本特有の蒸し暑さを感じる季節になってまいりました。現在ラブでは一時保護児童を含む4名が一緒に暮らしています。今年度に入り、大学受験合格を目標に日々遅くまで勉強に取り組む児童や高校に通いながら自分に見合ったアルバイトを探す児童など、みんな様々な壁に立ち向かっています。最近では頑張っていたアルバイトで挫折し、進むべき道を見失ってしまう児童もいますがその子のペースで次のステップへ進める支援や声掛けを行っています。それぞれ違う目的を目指す児童を日々見守っていく中で、職員も一緒にステップアップできる機会となりました。そんなラブでは児童の不満を少しでも減らすために、月に1度の意見交換会を行っています。意見交換会では児童、職員共にみんなで話し合い、児童の意見を基にルールを決めています。人見知りのある子も普段あまり意見を言えない子もその時間だけは言いたい事を伝える、それをみんなで吟味し受け入れる。今回は3回目の意見交換会となりました。最初は発言を控えていた子どもも自信を持って発言が出来るようになり、素直に謝ることが出来なかった子が「ごめんね」と言えるようになるなど、今では



児童の成長が垣間見える貴重な時間となっています。その他にも、ラブで生活する児童はそれぞれ活動時間が違うため、月に1回のイベントの時間も大切にしています。4月には近くの公園へお花見に行き、みんなで昼食を囲みました。その際には「今までこんなことをしたことが無かったから楽しい」と走り回る児童の姿に職員全員が感動するほどいい思い出となりました。これからもラブでは児童の笑顔と安全を守れるよう、こうした思い出作りや日常でのコミュニケーションを大切にしていきたいです。

児童と職員でバドミントンをして体を動かしました。

小 暑を過ぎ、いよいよ夏本番といったところで、現在庵では5名の児童が入居しています。2名は自分の将来に繋がるようなアルバイトに日々精を出しており、3名は自分に合った仕事や働き方を模索している最中です。4月から入居した高校1年生のS君は、5月に人生初めてのアルバイトを始めました。好きなyoutuberも働いていたことがある憧れのファーストフードチェーン店でのアルバイトで、接客やレジ打ち、調理などの仕事に取り組みましたが、自分の思うように立ち振る舞えないことに悩み、退職を選択しました。現在は新しいアルバイトを探していますが、前回のアルバイトで自分の得意なことと苦手なことを知れたことで、自分に合った仕事内容を吟味するようになりました。初めてのアルバイトは上手くいきませんでした。そこで挫折することなく、経験を糧に成長する姿にS君の伸びしろを感じました。先日、学校やアルバイトの休みの児童が多い日に、近隣の体育館を借りて、児童と職員でバドミントンをして体を動かしました。



男子ホームなので運動をしたいという要望は多く、参加した児童たちは汗だくになりながら笑顔で体を動かしていました。また、児童・職員ともに活発に声を出しており、明るい雰囲気共有でき絆の深まりを感じました。今後もこうした児童と職員と一緒に取り組むようなイベントを増やし、児童・職員ともに生き生きとしたホーム作りを目指していきたいです。

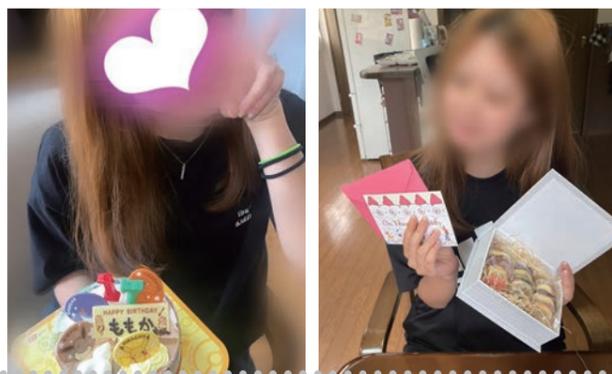
正面から向き合うことで児童との距離も少しずつ縮まってきたように思います。

現 在3名の児童が入居しています。17歳のMさんは6月に、入居して初めての誕生日を迎えました。

入居当初は全日制高校に在学していましたが、ホームでの生活に慣れず不安や戸惑いがあり生活リズムが乱れ、徐々に高校に通学することが出来なくなりました。自分の気持ちを上手く表出することが出来ず職員と気持ちがすれ違うこともたくさんありました。友人と一緒に過ごすことで自分の気持ちを満たすようになり、外出・外泊することもこの時期から増えてきました。職員がMさんを心配し連絡することを鬱陶しく感じていたようで「これまで誰かに心配された経験がないから心配されるということがどういうことかよく分からない」とのMさんの言葉にMさんの気持ちを理解することが出来ていなかったことを反省し、Mさんとの話し合いの場を何度も設け、支援の方法においても見立てを変更しながら向き合いました。正面から向き合うことでMさんとの距離も少しずつ縮まってきたように思います。



今では良いことも悪いことも相談してきてくれるようになりました。誕生日にはMさんの欲しかったTシャツと一緒に買いに行き、ケーキも選びに行きました。可愛らしい笑顔が印象的でした。誕生日を誰かに祝ってもらうという当たり前のことがMさんには当たり前の事ではなかったのかもしれない。当たり前の経験をたくさん出来るよう支援に携わっています。



高校総体の応援に行ってきました。

2 号室には3名の児童が入居しています。Tさんは全日制高校に通学しながら弓道部に所属し、空いた時間にバイトも頑張っています。

日中は学校、土日は部活やバイトがある為、Tさんとコミュニケーションを取る時間が少ないのですが、限られた時間の中でTさんと関わりを持っています。

5月末から6月の初旬にかけて高校総体がありTさんにとって高校生活最後の総体でした。

職員が試合の応援に行くことを伝えると「下手くそだから恥ずかしいです」と応援に行くことを拒んでいましたが、応援に行くことにしました。

弓道個人戦にて見事4位となり九州大会出場の特典を得ることが出来ました。試合中のTさんはホームでは見たことのない表情で試合に挑んでいました。試合が終わると「せんせい！」と笑顔で駆け寄ってきてくれました。



「遠いのに応援に来てくれてありがとうございました。」とのTさんの言葉と、これまで練習を頑張った結果を残したTさんの姿に感動をもらいました。

支援者として児童から元気をもらえたことがとても嬉しく、やりがいを感じる瞬間でもありました。これまで育った背景から大人を頼ることが出来ない所もありますが、こういったホーム外での関わりの中や日常生活の中で信頼関係を築き大人を頼る事が出来るよう支援しています。



初めての収穫体験。そしてそれぞれの始まり。

季 節も春から夏に変わろうとしており、だんだんと暑くなっています。

今年初めてジャガイモ掘りに参加させて頂きました。毎年参加できずにいたのですが、今年は参加する事が出来て、子どもたちも喜んでいました。土などもあまり触ったことがない子どもたちですが、自然に触れながら収穫した大きなジャガイモを見て驚き、小さなジャガイモを見て職員に「かわいいね」と話してきたり、土から出てくる虫を見て逃げ回ったり。

今回収穫体験が出来た事は、食の大切さに触れる良い経験になったと思います。

子どもたちも「また参加したい」と話していました。畑では他のホームの児童との交流もあり、楽しそうに過ごしていました。

職員共々このような経験をさせてもらえる環境に感謝しています。LUCKでは今年退所する児童、新しく入居している児童がいます。



退所していく子どもたちの背中を見るのは辛いですが、自立していく事に対して職員一同喜びを覚え応援していく気持ちでいっぱいです。その子どもたちが少しでも「LUCKで過ごせて良かった、楽しかった」と思ってもらえれば心から願っています。LUCKでは毎月イベントを予定しているので、少しでも笑顔でいられる日が多くなるようこれからも職員、子どもたちとのふれあいの時間を大切にしながら過ごして行こうと思います。

一日一日を大切に。

現 在児童6名で生活しており、職員5名と一緒に日々を過ごしています。高校とアルバイトの両立を頑張っている子、正社員を目指してアルバイトをしている子、自立に向けてアルバイトを頑張っている子、アルバイトは出来ないけれど何かをしようと葛藤している子、みんなそれぞれ自分の目標に向けて前を向いて少しずつですが進もうと努力しています。

アイグループでのイベントを児童達に体験してもらい、楽しい思い出を作る事を積極的に考え参加しています。ジャガイモ堀では太陽の光を浴び、生き生きとした表情で楽しんでいました。土に触れる機会は中々無く、日々アルバイトと学業で忙しく過ごしている児童にとってリフレッシュにもなっていました。

定期総会の懇親会にも参加させて頂きました。テーブルマナーが分からず、たくさん並ぶフォークに戸惑う子、知らない人が多い為緊張する子と反応は様々でした。



他ホームの児童と交流したり、退居児童の話を聞いたことから影響を受けた様子で、将来について考える機会にもなりました。児童たちは日々悩みながらも成長しています。職員はそんな児童達の思いを全力で受け止め、前へ進むための手助けをしていきたいと思っています。どんな時もホームに帰れば安心できる、一緒に成長していける場所としてかわらずにありつづけていきたいです。

Permit

今年は初めてジャガイモ堀に参加させていただきました。

夏の暑さを感じる今日、Permitでは入居者5名、犬1匹が生活をしています。

今年は初めてジャガイモ堀に参加させていただきました。大小様々なジャガイモを土から掘ったり、出てきた虫を見て騒いだり、掘ったジャガイモを袋に詰めたりと普段はできない体験ができました。また他のホームの入居者・職員の方との交流にもつながりました。ジャガイモ堀を頑張った後の食事では、出されたうな重を見てテンションが上がり、嬉しそうに食べていました。帰りには「疲れたけどまた参加したい」と話していました。

定期総会後の懇親会に参加した際には、テーブルマナーを職員に聞き、苦戦しながらも学ぶことができました。その際に他のホームの入居者とも話をして仲良くなることができました。このように入居者が色々な体験ができる環境にあることを職員一同、喜んでいます。

Permitの裏庭に小さいですが畑を新しく作りました。入居者と職員と一緒に草取りをして形を作り、ミニトマト、茄子、大葉の苗を植



え、水やりをしています。作物を育てるために外に出ることは心身に良い影響があると考えています。

犬の“こてつ”も1才を過ぎ、やんちゃでまだまだ手がかかることもあります。みんなを明るく笑顔にしてくれ、元気と癒しを与えてくれています。

今後も、イベントを増やしながらい入居者の個性を尊重し、温かく見守っていききたいと思います。



自立援助ホーム inn

できることからやってみよう。

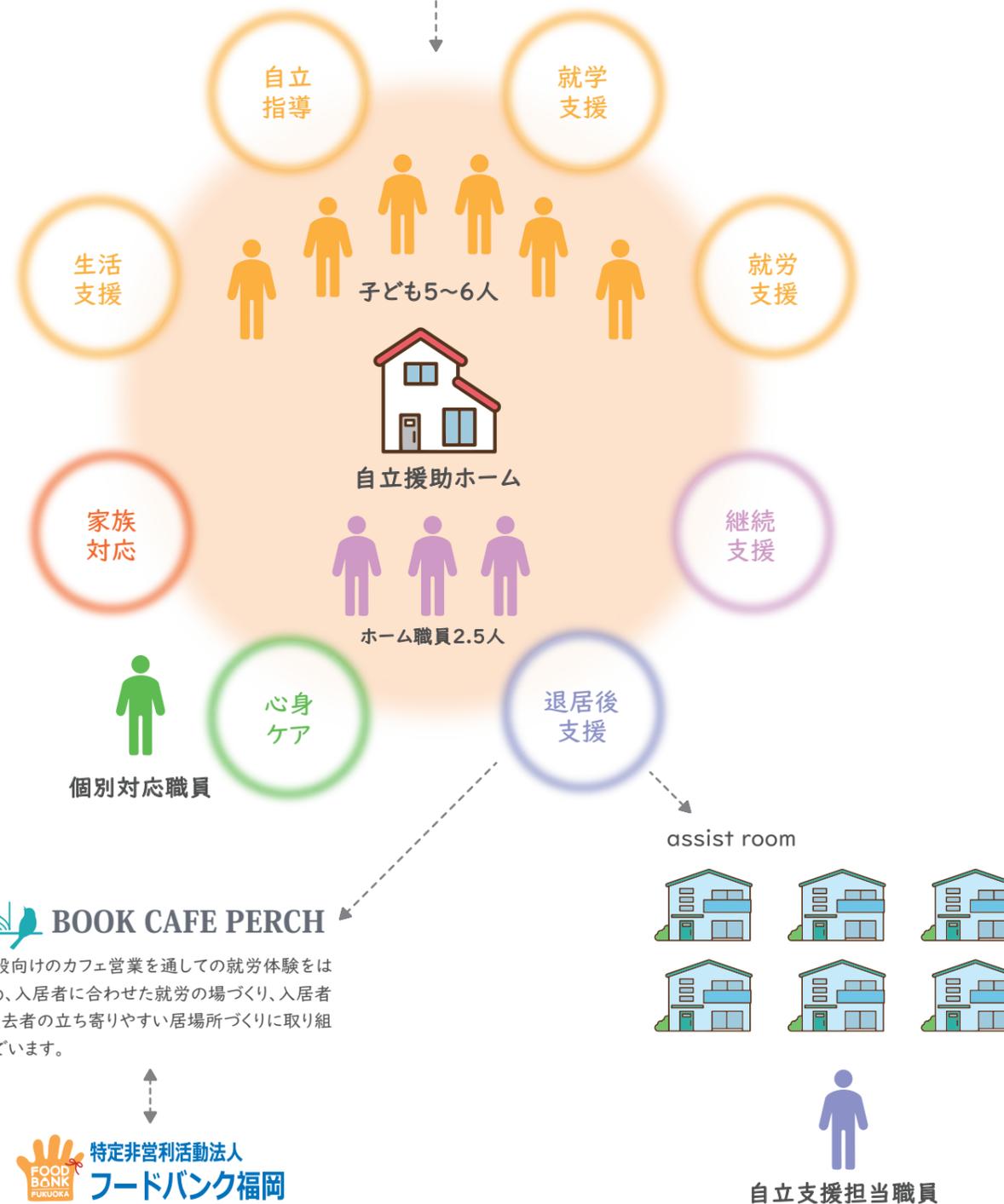
新制度や新体制に戸惑いながらも、「できることを」モットーに、児童、スタッフ一同助け合いながら日々頑張っています。4月早々には、一人の児童の退居がありました。今まで一緒に生活していた児童とお別れは寂しいものです。そんなどんよりした空気を吹き飛ばす思いと、今後より一層児童と向き合うために、児童のリクエストに応えホットサンド作りやバーベキューなどを行いました。ホットサンド作りでは、料理が苦手な児童も好きな具材を自分で選び作っていました。日常、興味はあるけどなかなか自分たちで料理を作るまでには至っておらず、今回がいい機会になったと思います。バーベキューでは、児童のニーズに合わせ、たくさんの食材を用意し、お腹いっぱいになるまで食べていました。食事をしながら、普段聞かないような話を聞いたり、バーベキュー経験がない児童にも、良い経験となったようです。また、月1回児童と職員と集まりミーティングをしています。児童の要望での美味しい食事を摂りながら、日常生活での困り事や、今後行うイベントの内容等を主に話し、楽しい時間を過ごしています。共同生活をするうえ



でより良い生活をするために、児童達で話し合い互いに譲歩し合いながら環境づくりに取り組んでいきたいと思っています。これからも、innは児童のニーズに答えつつ、メリハリのある生活を送れるように定期的にイベントなどを取り入れ、児童の活力になるような支援を続けて行きたいと思っています。

児童相談所・県庁・市役所・関係機関等との連絡調整

地域からのご相談に応じて次のような支援を提供しています。以下のイメージは自立援助ホームを中心にしていますが、BOOK CAFE、assist room、退居後の支援も取り組んでいます。



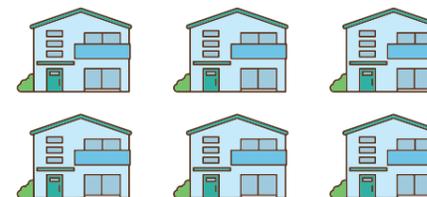
BOOK CAFE PERCH

一般向けのカフェ営業を通しての就労体験をはじめ、入居者に合わせた就労の場づくり、入居者・退去者の立ち寄りやすい居場所づくりに取り組んでいます。

**特定非営利活動法人
フードバンク福岡**

当法人へ寄付をいただいたものを支援対象者へ届ける取り組みも行なっています。ご協力いただける企業の皆様のご協力も募っています。

assist room



自立支援担当職員

退居後も経験豊富な職員による支援を行なっています。20代まで途切れない支援を行うように努めています。入居中からも関わりを持ちながら信頼関係を築いていきます。